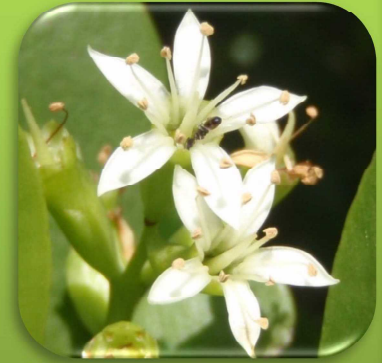


ニュースレター

ゆりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 27 年 10 月発行 No.45 号



ヒルギモドキ

森の巨人たち百選「ウトラ川上流のオヒルギ」の調査を実施



保全措置された森の巨人オヒルギ

森の巨人たち百選に選定されている「ウトラ川上流のオヒルギ」の調査を 5 月 13 日(水)に実施しました。このオヒルギについては、超老齢木であるため、「西表島巨樹・巨木保全協議会（竹富町役場主催）」において、樹木医診断や当センターのモニタリング報告に基づき、台風等による枝折れ防止対策やシャコ塚除去の地盤対策などの保全措置が検討され昨年度実施されました。

これにより、平成 18 年の樹勢回復措置以降に行ってきたモニタリングについては終了し、今回の調査から新たなモニタリングを行うこととしました。

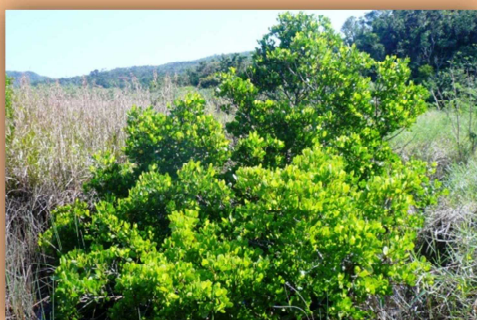
マングローブ開花結実習性調査を実施

平成 26 年度から実施している「西表島におけるマングローブ開花結実習性等調査」を今年度も 4 月 28 日(火)を皮切りに調査を開始しました。調査種は 10 種で 3 年間を予定しています。

4 月の調査では、サキシマスオウノキの開花を確認しました。また、メヒルギの成長した胎生種子を確認しました。



開花したサキシマスオウノキ



ヒルギモドキ (シクシン科) *Lumnitzera racemosa*

マングローブ林の最も陸域側に生育し、高さは西表島では約 5m 程度になります。花びらが 5 枚の小さな白い花をつけます。実は楕円形で小粒です。葉は両面で光合成ができる仕組み（等面葉）になっており、葉の先は凹形です。西表島では船浦湾など西部地域でよく見られます。絶滅危惧 IA 類 (CR) (環境省レッドリスト) に指定されている。

古見岳登山道のアメリカハマグルマの試験駆除

7月22日(水)に、古見岳登山道のアメリカハマグルマの試験駆除を実施しました。

アメリカハマグルマは1970年代に沖縄の各地に緑化植物として導入され、野生化しています。世界的にはマングローブや海岸植生といった希少な自然環境に侵入して在来種や生態系を脅かしており、侵略的外来種となっています。



人力による抜き取り駆除風景

こうした悪影響から、世界の侵略的外来種ワースト100の一つに選定され、日本でも外来生物法により要注外来生物に指定されています。

西表島の各地でも、至る所でマント状に繁茂したアメリカハマグルマが見られ、希少種の衰退が危惧されているところです。

今回、古見岳登山道(相良川入口付近)で繁茂しているアメリカハマグルマを人力により抜き取り駆除を行いました。今後、定期的に観察を行い、必要であれば再度駆除を行いたいと思います。

(引用: Wikipedia より)

「石垣市ハハーリ競争大会」に参加

石垣市で海神に安全を祈願するハハーリ競争大会が6月19日行われ、大勢の市民や観光客で賑わいました。当センターも環境省石垣自然保護官事務所の職員と10名の合同チームを結成し、団体ハハーリ競争に参加し祈願しました。

男女混成チームで練習約1時間という不安が残る中での参加でしたが、参加80チーム中で何とか最下位は逃れ各自が安堵の表情でした。

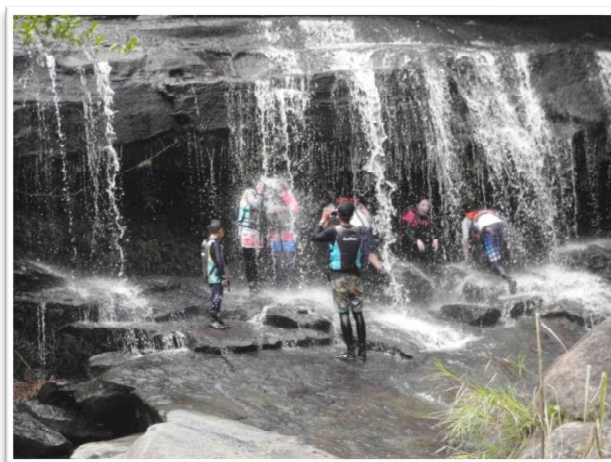
試合後は、検討を称え反省会を行い、両事務所の今後の親睦も深まりました。



平成27年度ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

6月期ヒナイ川流域における利用状況調査を22日(月)、西田川流域における利用状況調査を23日(火)に実施しました。

結果は、ヒナイ川のカヌーツアーが12組(ガイドを含め58名)、西田川のカヌーツアーが4組(ガイドを含め24名)でした。ガイドを除く利用者は男性31名、女性34名でほとんどが県外からの利用者で、外国からのグループもありました。大阪からの女性客はピナイサーラの滝壺に入り「気持ちよかった」と言っていました。



サンガラの滝の利用客

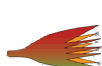
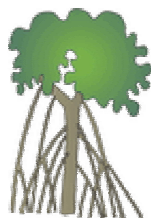
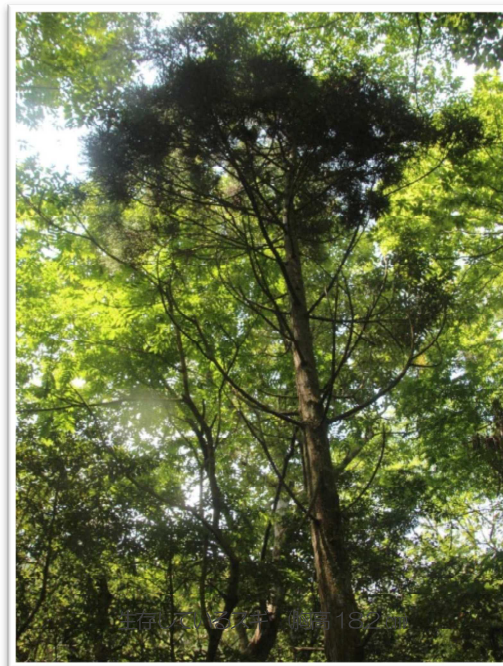
西表島で生育しているスギを確認

4月23日に西表島西部の仲良川上流の西表国有林147林班に生育するスギの確認を行いました。

このスギは、戦後に播種もしくは植林されたものと思われ、樹齢40～50年程度は経過していると推測されます。

十数年前に3本のスギの存在を確認しましたが、今回の確認では1本はすでに枯れており、残存している2本（胸高径18.2cm 樹高13m、胸高径7.8cm 樹高6m）はシロアリに食害されており今後の生育が危惧されます。

スギは日本固有種であり、分布は、北は本州北端から南は屋久島まで自生する。また北海道各地にも広く造林されている。亜熱帯地方である西表島で生育するのは希である。



西表島に生育する外来種 ③



琉球列島へは明治初期に導入後、荒地復旧、防風林などの目的で広く植栽され、野生化している。高さ7～20mの常緑高木。葉のように見えるのは小枝で、トクサ状に下垂する。別名として、モクマオウ・トキワギョリュウと言われている。

日当たりのよい砂地を好む。海岸に多く、砂や貝殻の多い砂浜、岩地、砂丘、河口のマングローブ林、草原、湿地、森林に生育する。耐塩性が強く、耐旱性がある。また、耐寒性はなく、耐陰性はないので攪乱地に侵入しやすい。

本種の落葉は分解されにくく、在来植生の更新を阻害している。小笠原では本種やリュウキュウマツの落ち葉によって裸地が覆われ、オガサワラハンミョウの局所的な絶滅が生じている。

引用：総合対策外来種一覧（環境省）

外来種とは？

明治以降に日本に移入導入された生物を外来種といい、分布域や生息・生育区域を拡大して生態系に重大な影響を与えることがあります。

総合対策外来種とは？

国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。

西表島の似たもの植物

オオバギ

V s .

ハスノハギリ



区 分	木本類
分 布	沖縄、台湾、中国、東南アジア
葉 の 形	卵形、広卵形
葉 の 縁	全縁、鋸歯
葉 の 先	尾状形

区 分	木本類
分 布	鹿児島（沖永良部島以南）、沖縄 小笠原
葉 の 形	楕円形、長卵形
葉 の 縁	全縁
葉 の 先	鋭尖形

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	円形
実 の 種 類	そう果
花 ・ 萼 色	緑黄色

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	ハート形
実 の 種 類	核果
花 ・ 萼 色	白色

説 明
低地から山地の荒れ地や林の縁などに生育し、高さ4-10mの常緑の小高木で、枝は太く、若木の時には毛が生えます。葉は互生し、傘を広げたような特徴のある盾状の形をしており、10-25cmと大型で、葉の先は尾状形をしています。葉柄の長さは6-15cmです。花は腋生し円錐花序、緑黄色で小型の花が咲きます。実は球形で黒く熟します。

説 明
海岸近くに生育し、高さ7-20mの常緑の高木です。若い枝は緑色をしており、新しい芽には短い毛が密に生えますが、じきに無毛となります。葉は革質で光沢があり無毛、長さ10-30cm、幅8-20cmです。葉柄は盾状に付き、長さ5-15cmです。花は白色で、全体が短く柔らかい毛に覆われます。実は黒く熟し、楕円形の球形で長さ約2cmです。

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

